

情報ボックス

No. 16

大阪府立西淀川支援学校 進路支援部

本年度の情報ボックスのテーマは「リハビリについて」です。
年間3回の発行を通して、各種リハビリの概要等についてお伝えしていきます。



○ 肢体不自由児が受けるリハビリテーションの主なものには、

- ・ P T (physical therapy) : 理学療法
- ・ O T (occupational therapy) : 作業療法
- ・ S T (speech therapy) : 言語聴覚療法

の3つが挙げられます。本校にも訓練機関で、上記のリハビリを受けている児童・生徒がたくさんいます。

上記の訓練スタッフ（セラピスト）のことを、それぞれ「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」といい、
肢体不自由教育においては、これらの専門職の方と連携をとることも大切になります。

今回はこの中から、P T（理学療法）についてと、教員のリハビリ見学についてお伝えします。

◎ P Tとは

身体に障がいのある人や、障がいが発生すると予測される人に対して、座る、立つ、歩くなどの基本動作の能力回復や維持のため、また障がいが悪化することを予防するために、身体を動かす中で機能回復を図る運動療法や、温熱・牽引など物理的な手段によって機能回復を図る物理療法などを用いて、自立した日常生活を送ることができるように支援するリハビリテーション、またはその専門職の名称。

つまり、身体を動かすことについてのリハビリテーションや、その専門家を示す言葉です。
たとえば、どんなことをするのかというと・・・



身体を弛める

座位や立位、歩行練習などをする前に身体の緊張をとったり、準備となる体操をして筋肉を弛めたりします。

目的に応じて、肩、腰、脚、足首などを順に弛めていきます。



立位・歩行などの練習

人の介助や、さまざまな介助器具を使うなどして、立位や歩行の練習をすることがあります。方法は、身体の状態や目標に応じて異なります。



子どもの実態や、目的に合わせて行われているリハビリはさまざまです。学校生活や、自立活動の指導の中で困ったことがあれば、保護者の方や訓練機関の了承を得て、リハビリ見学に行くこともあります。

○ リハビリを見学する際のポイントと注意事項

1、日常の教育活動で困っていることを挙げ、見学に行きましょう。

(例：緊張が強いので身体の弛め方が知りたい。学校で取り組める歩行の練習方法を知りたい。)

2、リハビリの課題・ねらい・準備・内容を把握しましょう。

3、できるだけセラピストと会話をして、情報を得ましょう。

→ そのために、事前に質問事項を挙げておくことは重要です。

セラピストや保護者に了解を得られたら、写真や動画で記録をとることも有効です。

学校の中で共通の記録用紙を作るなどして、見学した内容を教員間で共有することも大切になります。学校生活の中で安全に取り入れられる内容を選択し、教育活動に取り入れていきましょう！



* 次回は、OT（作業療法）のリハビリについて、お伝えします。